

＜パーキンソン病患者の転倒リスクの評価＞

- ・ パーキンソン病患者における転倒（年間 70%）

- ・ 評価
- ① 歩行能力
歩行の安全性・安定性＋方向転換・歩行開始・着座
すくみ足、環境の変化
- ② バランス能力
Pull test、Berg balance scale、Functional reach test、片脚立位など
パーキンソン病患者は自分自身の身体能力を過大評価する傾向がある
- ③ 認知・精神機能
Frontal assessment battery(FAB)、Trail making test(TMT)、ストループ課題など
うつ、自分の身体機能への理解、自立度の理解、注意の問題
- ④ 2重課題下での歩行能力
歩行速度・歩幅が減少、ストライドタイム変動性が増加し転倒の危険性と関係がある
- ⑤ 自律神経障害
起立性低血圧・排尿障害（夜間頻尿）→転倒との関連が大きい
- ⑥ 投薬の影響
on-off 現象、wearing off の有無、副作用や投薬の変更に注意
off 期に動く人に注意
- ⑦ 環境調整
ドアの開閉、ベッド・椅子の高さ、戸棚の高さ、床上の Que など

- ・ もし転倒してしまったら・・・
パーキンソン病患者の転倒状況は画一的でいくつかのパターンにまとめられることが多い
転倒状況の確認を行い、次の転倒予防につなげる

- ・ 転倒予防教室の紹介
身体機能・転倒リスクの評価→Feedback（ADL 指導・ホームプログラム）→定期的に再評価